化学物質等安全性データシート（SDS）

整理番号：７４３９－９２－１④
作成日：平成１５年７月１日
改訂日：平成２７年１月 19 日

品　　目：鉛電池の端子,極板等その他鉛使用の構成部分（鉛及びその化合物全般）

1.製造者情報

社名	：古河電池株式会社
住所	：横浜市保土ヶ谷区星川２－４－１
緊急連絡先	：経営戦略企画室　環境推進部
TEL	：０４５－３３６－５０５５
FAX	：０４５－３３３－２５３４

2.危険有害性の要約

ＧＨＳ分類：

物理化学的危険性	**分類結果(鉛)**	**分類結果(酸化鉛)**
火薬類	分類対象外	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外	分類対象外
可燃性・引火性ｴｱｿﾞｰﾙ	分類対象外	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外	分類対象外
高圧ガス	分類対象外	分類対象外
引火性液体	分類対象外	分類対象外
可燃性固体	区分外	区分外
自己反応性化学品	分類対象外	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外	分類対象外
自然発火性固体	区分外	区分外
自己発熱性化学品	区分外	区分外
水反応可燃性化学品	区分外	区分外
酸化性液体	分類対象外	分類対象外
酸化性固体	分類対象外	分類できない
有機過酸化物	分類対象外	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない	分類できない
健康に対する有害性		
急性毒性（経口）	分類できない	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない	分類できない
急性毒性（収入：粉塵・ﾐｽﾄ）	分類できない	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	分類できない	区分３
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない	分類できない
呼吸器感作性	分類できない	分類できない
皮膚感作性	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性	区分２	区分２
発がん性	区分２	区分２
生殖毒性	区分 1A	区分 1A
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない	分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（造血系、腎臓、中枢神経系、末梢神経系、心血管	区分２（血液系、神経系、腎臓）

系、免疫系）

吸引性呼吸器有害性	分類できない	分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性	分類できない	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない	区分４

ラベル要素:鉛・酸化鉛

絵表示又はシンボル:

注意喚起語:　　危険

危険有害性情報:鉛及び鉛化合物

遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれの疑い（日本産業衛生学会；グループ２B）
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
長期又は反復ばく露による造血系、腎臓、中枢神経系、末梢神経系、心血管系、免疫系の障害

注意書き:鉛及び鉛化合物

【安全対策】
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
適切な保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
粉塵を吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
鉛自身は不燃性であるが、粉体の場合には粉塵爆発の可能性がある。
酸・アルカリと接触すると水素が発生し、その水素が爆発することがある。
【応急措置】
ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
【保管】
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の
廃棄物処理業者に業務を委託すること。

3. 組成・成分情報

構成成分		化学記号	産衛学会 (mg/m^3)	ACGIH TLV (mg/m^3)	CAS. No
物質名	構成部分				
鉛	極板	Pb	0.1	0.05	7439-92-1
酸化鉛	極板	PbO_2	0.1	0.05	1309-60-0

4. 応急措置

目に入った場合：

少量でも目に入った場合は、直ちに多量の流水で１５分間以上洗眼し、その際眼瞼を指でよく開らいて、眼球・眼瞼の隅々まで水がよく行き渡るようにして洗う。

速やかに眼科医の治療を受けること。医師の指示無しに点眼薬,塗り薬等を用いてはならない。

皮膚に付着した場合：

直ちに多量の水で石鹸を用いて充分に洗うこと。

飲み込んだ場合：

直ちに医師の診断をうけさせること。

吸引した場合

直ちに吸引した場所から新鮮な空気が得られる場所に患者を移し、速やかに医師の治療を受けること。

5. 火災時の措置

固体の鉛は不燃性であり助燃性もないが、蓄電池及び電解液取り扱い場所等で火災が起こった場合は粉末消火剤、泡消火剤、不燃性ガスの消火器で消火すること。

また、火災時には刺激性もしくは有毒なヒューム（又はガス）発生するため、火災の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用すること。

6. 漏出時の措置

漏出した場合：

粉体の場合には特に粉塵・ヒュームを吸引しないように適切な保護具を着用すること。また、漏出した鉛又は汚染された排水が河川等に排出され環境への影響を起こさないように注意し、適切な保護具を着用し、できるだけ回収すること。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い　：バッテリーには火気を近づけないこと。

端子間のショートはさせないこと。

電解液の取り扱い、補充、液面調整及び交換作業は換気の良い所で行いガス及びミストを吸引しないようにすること。

容器を破損させないようにすること。

蓄電池の液口栓や容器の蓋を開ける際に電解液が吹出すことがあるので注意すること。

電解液をこぼさないように細心の注意をすること。

電解液が体に触れて薬傷を起こさないように必要な保護具（保護メガネ、保護手袋、保護長靴等）を着用すること。

鉛の取り扱い場所には、局所排気装置を設けること。

電池の取り扱い場所では飲食・喫煙をしてはならない。

重量物を扱う場合には、腰痛・足への落下に注意すること。

保管　：高温、高湿、雨露、直射日光を受ける所や有害なガス、液滴、粉塵発生,侵入および水没のおそれのない場所に保管すること。

火気のない場所に保管すること。

8. 曝露防止措置

許容濃度　：ＡＣＧＩＨ（ＴＬＶ）（１９９４年）　ＴＷＡ　；０．０５ｍｇ／ｍ^3

日本産業衛生学会勧告値（２００８年）　０．１ｍｇ／ｍ^3（最大許容濃度）

保護具　：鉛を取り扱う場合は、必要に応じて下記の中から必要な保護具を着用する。

呼吸用保護具、保護メガネ、安全帽、ゴム手袋、保護衣、保護前掛け

9. 物理／化学的性質

鉛	外観	；帯青色の軟らかい金属
	密度（比重）	；11.34
	沸点	；1740℃
	融点	；327℃以下
	溶解度	；水への溶解性；溶けない

10. 危険性情報（安定性及び反応性）

発火性　　：鉛自体は不燃性であるが、粉体の場合には粉塵爆発の可能性がある。蓄電池内で発生した水素ガス及び酸素ガスにより、火気を近づける又はショートすることにより引火爆発の危険がある。

安定性・反応性：酸・アルカリと反応して水素を発生する。

11. 有害性情報

経口毒性　　：ヒト（女）TDLo　４５０ mg/kg/6Y

吸入毒性　　：ヒト　　TDLo　　１０　$\mu g/m^3$

慢性毒性　　：仙痛・ショック・貧血・腎障害・脳症を生じることがある。

製品有害性情報：吸入飲用不可。上記障害を起こす恐れがある。
吸入・飲み込んだ場合は、重度の障害あるいは生命に危険を及ぼす影響がある。

12. 環境影響情報

漏洩時・廃棄等の際には必要な措置を講じること。環境中に漏洩した場合は重大な影響を与える。

13. 廃棄上の注意

そのまま廃棄せず、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って廃棄すること。
廃液・容器等の廃棄を委託する場合は、許可を受けた産業廃棄物収集運搬,処理業者とそれぞれ委託契約をしなければならない。
排水処理,焼却などにより発生した廃棄物についても、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って処理を行うか、委託すること。
必要な保護具を着用して行うこと。

14. 輸送上の注意

共通事項　　：他の物質との混載はなるべく避けること。
転倒させたり、落下させたりして電解液が漏出しないよう慎重に取扱うこと。
積み込み,荷下ろし,移動などの作業を行うときは、必要な保護具を着用すること。
漏出等の為、環境影響及び災害発生の恐れがある時は、応急処置を講じ必要に応じて消防機関,警察署,保健所等に連絡する。

陸上輸送　　：労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法の輸送について定めるところに従うこと。

海上輸送　　：船舶安全法の定めるところに従うこと。

航空輸送　　：航空安全法の定めるところに従うこと。

国連番号　　：データなし

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法：非該当

労働安全衛生法　　：鉛中毒予防規則・ＭＳＤＳ対象物質

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律（ＰＲＴＲ法）：対象物質

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手可能な資料や情報に基づいて作成しており、記載データや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また注意事項は通常の取り扱いを対象としたもので、特別な取り扱いをする場合は、新たに用途・用法に適した安全対策を実施し取り扱う必要があります。
本データシートの内容は、新たな知見により予告なく変更することがあります。

【参考文献】

（1）産業中毒便覧増補版、後藤稠　外、1981、医歯薬出版
（2）化学物質毒性データ総覧、1976、日本メディカルセンター
（3）化学物質の危険有害便覧、中央労働災害防止協会編（1991）
（4）ＡＣＧＩＨ化学物質と物理因子のＴＬＶ　化学物質のＢＥＩ、沼野雄志訳、作業環境測定協会
（5）日本産業衛生学会許容濃度の勧告、産業衛生学雑誌５０巻５号（2008）